

2025年度東京支部内外交流部会事業

インドネシア特殊鋼関連視察研修 報告書

2025年



一般社団法人全日本特殊鋼流通協会 東京支部

～目次～

| | | |
|---------------------|-------|------|
| 1 . 視察研修の目的 | | P.1 |
| 2 . 日程表 | | P.2 |
| 3 . 訪問国地図 | | P.3 |
| 4 . 参加者名簿 | | P.4 |
| 5 . お世話になった方々 | | P.5 |
| 6 . インドネシアのプロフィール | | P.6 |
| 7 . 視察先・ホテル・レストラン情報 | | P.14 |
| 8 . 写真 | | P.15 |
| 9 . 参加者の研修報告書 | | P.23 |
| 10 . 編集後記 | | P.45 |

1.視察研修の目的

- (1) (一社) 全日本特殊鋼流通協会は、特殊鋼流通業界の健全な発展を図るため、その一環として従来から、国内、海外を問わず特殊鋼の流通加工業やそのユーザーの実態を調査すると共に、特殊鋼流通関連業者との交流・協力を行ってきました。

今回の事業の目的は海外の特殊鋼関連業者と現地工場などの視察と共に意見交換などの交流を行うことにより、

- ①海外への視野を広めること
- ②更なる海外展開への可能性を検討すること
- ③我が国との業界における創意を知ること

などです。

- (2) 東京支部内外交流部会では、2023年には国内視察研修として北九州を訪れました。2024年度には海外視察先として日本との距離が近い国、韓国を訪れました。そして2025年度はインドネシアを視察先として決定しました。

視察したのは、

ジャカルタではPT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所)、P.T.Sankei Gohsyu Industries(SGI)、P.T.日立建機インドネシア、スラバヤではPT.JATIM TAMAN STEEL MFG.第1 & 第2工場の四社としました。

工場などの視察だけでなく、インドネシア滞在中には現地駐在員の利用する、昼食場所の体験、現地の人たちや観光者が利用するレストランや、自由時間を通して宿泊ホテル近隣のショッピングモールやお店を通して、現地の方と接しインドネシアの文化に触れていただくこと。

そして参加者同士の交流についても、職務地域や世代を超えて深めていただくことを目的として計画・実施しました。

2.日程表

観光庁長官登録旅行業 第64号
 (一社) 日本旅行業協会正会員
 株式会社JTB

一般社団法人 全日本特殊鋼流通協会 東京支部

東京支部 内外交流部会 視察研修 (インドネシア)
 ジャカルタIN→バリOUT 6日間

〒100-0004 千代田区大手町2-2-1 新大手ビル1階
 TEL: 03-6737-9282 / FAX: 03-6737-9285
 営業時間: 9:30-17:30 / 定休日: 土日祝支店長: 名取 克

ご参加人数: 16名様 添乗員1名
 総合旅行業務取扱管理者: 伊藤 康景
 ご旅行方面: インドネシア
 作成日: 2025年10月15日
 ご旅行期間: 2025年10月21日(火)~10月26日(日) 6日間
 担当者: 村上 俊輔
 集合場所: 羽田空港



※視察先はお客様直接予約となります。視察先・視察スケジュールは想定となります。

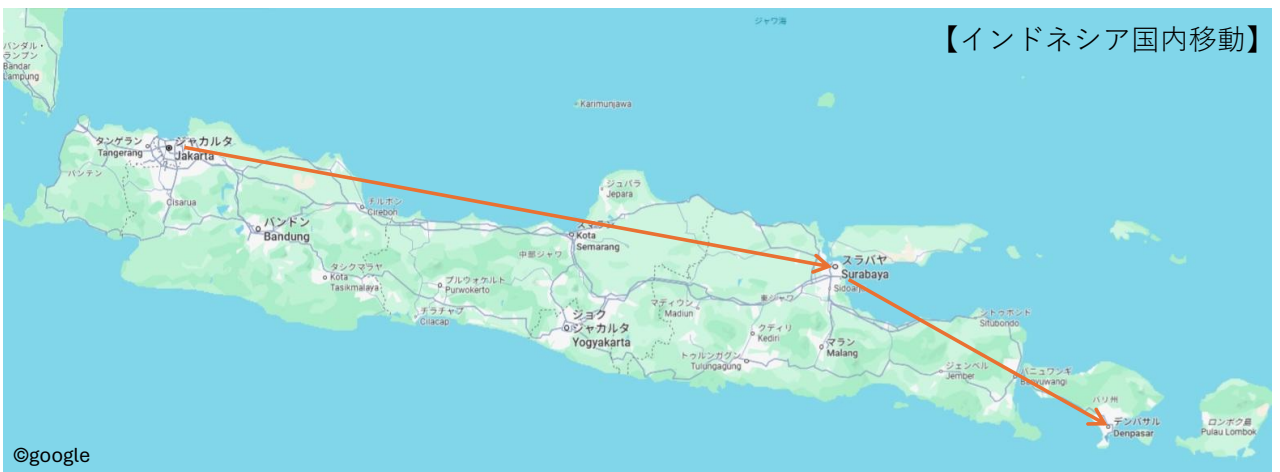
| 日次 | 月日(曜) | 地名 | 現地時間 | 交通機関 | 日程 | 食事 |
|----|----------|---|---|------------------------------------|--|--|
| 1 | 10/21(火) | 羽田空港 ジャカルタ スカルノ・ハッタ国際空港 ジャカルタ | 08:45 11:45 17:35 19:00 20:00 22:00 | GA875 (エコノミー) 専用車 | 羽田空港 集合 空路、ジャカルタへ 空港出発 市内レストラン「Jin Mu Restaurant PIK」にて懇親会 ホテル到着 (泊) Artotel Gelora Senayan (1名1室) | 朝: - 昼: - 機内: ○ 夕: ○ |
| 2 | 10/22(水) | ジャカルタ | 07:30 08:45-09:45 10:00-12:00 12:00-13:00 13:30-15:30 17:00 | 専用車 | ホテル出発 ■PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development (MMID) 事務所にてインドネシア概況及びMM2100概要説明 ■PT. Sankei Gohsyu Industries (SGI) 訪問 MM2100内レストラン「飛鳥」で昼食 ■PT. Hitachi Construction Machinery Indonesia (HCMI) ホテル到着 (泊) Artotel Gelora Senayan (1名1室) | 朝: ○ (ホテル) 昼: ○ 夕: - ※各自 |
| 3 | 10/23(木) | ジャカルタ ジャカルタ スカルノ・ハッタ国際空港 スラバヤ ジュアンダ国際空港 スラバヤ | 04:00 05:00 06:50 08:25 09:00 09:30-11:20 12:00-13:00 14:00-15:35 15:40 16:40 19:00 | 専用車 GA304 (エコノミー) 専用車 | ホテル出発 空港到着 空路、直行便でスラバヤへ 到着 空港出発 ■PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. 第1工場見学 昼食 (日本食レストラン KAYU) ■PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. 第2工場見学 第2工場出発 ホテル到着 [RIA GALERIA REST] にて夕食 ※インドネシア料理(鶏肉のサテなど) (泊) Bumi Surabaya City Resort (1名1室) | 朝: ○ (ボックス) 昼: ○ 夕: ○ |
| 4 | 10/24(金) | スラバヤ スラバヤ ジュアンダ国際空港 バリ デンパサール空港 バリ | 06:30 07:30 09:20 11:20 13:00 13:30 15:15 17:00-17:30 18:00-19:00 20:00-21:30 22:30 | 専用車 GA342 (エコノミー) 専用車 | ホテル出発 空港到着 空路、直行便でバリへ 到着 空港出発 ホテル周辺にて自由行動(Beachwalk Shopping Center)など / 荷物預け ホテル集合、出発 ウルワツ寺院 ケチャックダンス鑑賞 [NEW DEWATA CAFÉ] にて夕食 ※ロブスター ホテル到着 (泊) Aloft Bali Kuta at Beachwalk (1名1室) | 朝: ○ (ホテル) 昼: - ※各自 夕: ○ |
| 5 | 10/25(土) | バリ バリ デンパサール空港 | 9:00 11:30-12:30 13:30-14:30 15:30-16:00 16:45-17:30 20:00-21:30 21:45 | 専用車 | ホテル出発 ブサキ寺院 キンタマーニ高原「Grand Puncak Sari」にて昼食 ※日替わりビュッフェガララン 棚田 ウブド自由時間 [Suger&Spice] にて夕食 ※ローストチキン 空港到着 | 朝: ○ (ホテル) 昼: ○ 夕: ○ |
| 6 | 10/26(日) | バリ デンパサール空港 成田空港 | 00:20 08:50 | GA880 (エコノミー) | 空路、直行便で成田へ 到着後、解散 | 機内: ○ 朝: - 昼: - 夕: - |

お願い: このご旅程は運輸機関のダイヤ改正および各地の道路状況により多少時間の変更となる場合がございますので、お手数でも現地での出発時間をご確認ください。

3.訪問国地図



【インドネシア国内移動】



4.参加者名簿

| 人数 | 会社名 | 所属部 | 役職名 | 氏名（漢字） | 氏名（フリガナ） |
|----|------------------|------------|---------|--------|------------|
| 1 | 伊藤忠丸紅特殊鋼株式会社 | 特殊鋼本部 前橋支店 | | 武田 健太 | タケダケンタ |
| 2 | 伊藤忠丸紅特殊鋼株式会社 | 線材本部 線材部 | マネージャー | 中嶋 優 | ナカジマ ユウ |
| 3 | 株式会社 U E X | | 所長 | 小沢 友彦 | オザワ トモヒコ |
| 4 | 株式会社 N t o c | 営業部 | 課長 | 桂木 哲平 | カツラギ テツペイ |
| 5 | F-MAX株式会社 | | 運営副部長 | 古川 領佑 | フルカワ リョウスケ |
| 6 | 大洋商事株式会社 | 営業第1部 | 課長 | 和田 卓 | ワダ タカシ |
| 7 | 株式会社 鐵鋼社 | 本社営業部 | 課長 | 山片 康人 | ヤマガタ ヤスト |
| 8 | 中川特殊鋼株式会社 | 営業第二部 | マネージャー | 亀井 信太郎 | カメイ シンタロウ |
| 9 | ノボル鋼鉄株式会社 | 営業部 | | 福田 翔太 | フクダ ショウタ |
| 10 | 藤巻鋼材大阪株式会社 | 二次加工部 | 営業副部長 | 中嶋 瑛二 | ナカジマ エイジ |
| 11 | 藤巻鋼材株式会社 名古屋 | | 運営副部長 | 荻野 芳崇 | オギノ ヨシタカ |
| ☆ | 株式会社 ヤマコー | 営業部 | 副部長 | 河村 康史 | カワムラ ヤスシ |
| 13 | ヤマト特殊鋼株式会社 | 鋼材営業PG | | 中西 悠太 | ナカニシ ユウタ |
| 14 | リントツ株式会社 | 浜松支店 | 係長 | 加藤 大輔 | カトウ ダイスケ |
| 15 | 令和特殊鋼株式会社 | 東日本営業部 | チームリーダー | 鈴木 利彦 | スズキ トシヒコ |
| 16 | 一般社団法人全日本特殊鋼流通協会 | 東京支部事務局 | 総務課長 | 角川 一裕 | ツノカワ カズヒロ |

☆・・・本視察団の団長を務めていただきました。

※会社名あいうえお順・敬称略

5.お世話になった方々

(敬称略)

【視察先選定・調整において】

| | | |
|--|-----------------------|-------|
| 三菱製鋼株式会社 | 執行役員 営業本部鋼材営業部長 | 大岡 泰正 |
| PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development | President Director | 須藤 一夫 |
| PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development | Director | 加園 哲也 |
| PT. SANKEI GOHSYU INDUSTRIES | Sales General Manager | 衣田 充志 |
| PT Hitachi Construction Machinery Indonesia | Procurement Manager | 清水 直人 |
| PT Jatim Taman Steel Manufacturing | 社長取締役 | 沼川 孝 |

【旅行手配・調整において】

| | | |
|---------|-------|--------|
| 株式会社JTB | 営業第二課 | 深田 万佑子 |
| 株式会社JTB | 営業第二課 | 村上 俊輔 |

【視察VISA取得において】

| | | |
|------------------------------------|------------------|----------------|
| PT Jatim Taman Steel Manufacturing | IR-GA Department | Titis Andriany |
|------------------------------------|------------------|----------------|

【添乗員・現地ガイド・視察先説明&案内】

| | | |
|--------|-------|-----------|
| JTB添乗員 | 全旅程同行 | 鈴木 謙作 |
| 現地ガイド | ジャカルタ | Mr.Iwan |
| 現地ガイド | スラバヤ | Ms.Warih |
| 現地ガイド | バリ島 | Mr.Suarsa |

【訪問先でのご対応者】

| | | |
|--|---|--------|
| PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development | President Director | 須藤 一夫 |
| PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development | Director | 加園 哲也 |
| PT. SANKEI GOHSYU INDUSTRIES | President Director | 青木 純 |
| PT Hitachi Construction Machinery Indonesia | Procurement Manager | 清水 直人 |
| PT Hitachi Construction Machinery Indonesia | Manufacturing Engineering Manager | 菊地 喬之 |
| PT Jatim Taman Steel Manufacturing | 社長取締役 | 沼川 孝 |
| PT Jatim Taman Steel Manufacturing | Operation Director | 山本 輝康 |
| PT Jatim Taman Steel Manufacturing | Production Director | 氏家 涉悟 |
| PT Jatim Taman Steel Manufacturing | Production Management Control Deputy General Manager | 佐藤 直人 |
| PT Jatim Taman Steel Manufacturing | Production Management Control Group Manager | 伊集院 寛仁 |
| PT Jatim Taman Steel Manufacturing | P1 Production Management Control Senior Specialist | 斎藤 久也 |
| PT Jatim Taman Steel Manufacturing | P1 Production Management Control Senior Specialist | 入江 嘉佑 |

6. インドネシアのプロフィール



インドネシア共和国
Republic of Indonesia



※外務省ホームページより抜粋
(更新日付が令和7年9月25日のもの)

一般事情

- 1 面積
約 192 万平方キロメートル (日本の約 5 倍)
- 2 人口
約 2.79 億人 (2023 年、インドネシア政府統計)
- 3 首都
ジャカルタ (人口 1,067 万人 : 2023 年、インドネシア政府統計)
- 4 民族
約 1,300 (ジャワ人、スンダ人、マドゥーラ人等マレー系、パプア人等メラネシア系、中華系、アラブ系、インド系等)
- 5 言語
インドネシア語
- 6 宗教
イスラム教 87%、キリスト教 10.4% (プロテスタント 7.4%、カトリック 3%)、ヒンズー教 1.7%、仏教 0.7%
(2023 年、宗教省統計)

7 略史

| 年月 | 略史 |
|--------|---|
| 7世紀後半～ | スマトラに仏教国スリウィジャヤ王国が勃興。 |
| 8世紀 | 中部ジャワに、仏教国シャイレンドラ王朝が興り、ポロブドゥール等の有名な仏跡を残す。 |
| 13世紀 | イスラム文化・イスラム教の渡来。北スマトラのアチェ地方に最初のイスラム小王国が現れる。ジャワにマジャパイト王国が勃興し、ジャワ以外にも勢力を伸長。 |
| 1596年 | オランダの商船隊、西部ジャワのバンテン港に渡来。 |
| 1602年 | オランダ、ジャワに東インド会社を設立。 |
| 1799年 | オランダ、東インド会社を解散、インドネシアを直接統治下におく。 |
| 1942年 | 日本軍による占領（～1945年）。 |
| 1945年 | 8月17日、スカルノ及びハッタがインドネシアの独立を宣言。スカルノが初代大統領に選出。オランダとの間で独立戦争（～1949年）。 |
| 1949年 | ハーグ協定によりオランダがインドネシアの独立を承認。 |
| 1955年 | バンドンで「アジア・アフリカ会議」開催。 |
| 1965年 | 軍部と共産党との緊張の高まりを背景に「9月30日事件」が発生。翌1966年3月11日、スカルノ大統領は権限をスハルトに一部委譲。 |
| 1968年 | スハルト大統領就任（第2代大統領）。 |
| 1998年 | アジア通貨危機をきっかけに、ジャカルタを中心に全国で暴動が発生。民主化運動も拡大し、スハルト大統領は辞任。ハビビ大統領就任（第3代大統領）。 |
| 1999年 | 住民投票により東ティモールの独立が決定。ワヒッド大統領就任（第4代大統領）。 |
| 2001年 | メガワティ大統領就任（第5代大統領）。 |
| 2004年 | 国民による初の直接投票によりユドヨノが大統領に選出。ユドヨノ大統領就任（第6代大統領）。 |
| 2005年 | ヘルシンキ和平合意（独立アチェ運動（GAM）との和平成立）。 |
| 2009年 | ユドヨノ大統領再任。 |
| 2014年 | ジョコ・ウィドド大統領就任（第7代大統領） |
| 2019年 | ジョコ・ウィドド大統領再任 |
| 2024年 | プラボウォ・スビアント大統領就任（第8代大統領） |

政治体制・内政

1 政体

大統領制、共和制

2 元首

プラボウォ・スビアント大統領（2024年10月20日に就任、任期5年。）

3 議会

(1) 国会（DPR）：定数580名（任期5年）

(2) 地方代表議会（DPD）：定数152名（任期5年）

（注）その他、憲法の改正、大統領・副大統領の任期中の解任等を決定できる国民協議会（MPR）がある：732名（国会議員580名及び地方代表議員152名で構成）

4 内閣

内閣は大統領の補佐機関であり、大統領が国务大臣の任免権を有する。

5 内政

(1) 2024年2月の大統領選挙においてプラボウォ・スビアント国防相（当時）が約6割の得票で当選し、10月20日に正式に就任。

(2) プラボウォ政権は、2045年までに先進国入りすべく国家を発展させていくとのビジョンの下、各分野の政策を推進する方針を掲げている。

(3) 2024年2月には、大統領選挙と同時に議会総選挙が実施され10月1日に新国会議員等の就任式が行われた。

外交・国防

1 外交基本方針

国益を重視した独立かつ能動的な外交方針。この外交理念に基づき、ASEANを重視した地域外交、国際的な課題への対応に積極的に取り組んできている。2022年にG20議長国、2023年にASEAN議長国を務めた。

2 軍事力

(1) 予算

134兆ルピア（2023年。インドネシア財務省）

(2) 兵役

志願制

(3) 兵力

正規軍40万4,500人（陸軍30万400人、海軍7万4,000人、空軍3万100人）
（IISS, Military Balance 2024）

経済

1 主要産業

製造業 (18.7%)

卸売・小売 (12.9%)

農林水産業 (12.5%)

鉱業 (10.5%)

建設 (9.9%)

物流・倉庫 (5.9%)

情報・通信 (4.2%)

金融・保険 (4.2%)

行政サービス・軍事・社会保障 (3%)

(カッコ内は 2023 年における名目 GDP 構成比) (インドネシア政府統計)

2 GDP (名目)

| | 2015 年 | 2016 年 | 2017 年 | 2018 年 | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| GDP (名目) | 8,609 | 9,319 | 10,154 | 10,422 | 11,191 | 10,584 | 10,657 | 11,223 | 11,790 |

(単位：億ドル) (世銀統計)

3 一人当り GDP (名目)

| | 2015 年 | 2016 年 | 2017 年 | 2018 年 | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 |
|---------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 一人当り GDP (名目) | 3,374.5 | 3,605.1 | 3,876.8 | 3,927.0 | 4,174.9 | 3,911.7 | 4,349.5 | 4784 |

(単位：ドル) (インドネシア政府統計)

4 一人当り GNI (名目)

| | 2015 年 | 2016 年 | 2017 年 | 2018 年 | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 |
|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一人当り GNI (名目) | 3,440 | 3,400 | 3,530 | 3,840 | 4,050 | 3,870 | 4,170 | 4,580 | 4,870 |

(単位：ドル) (世銀統計)

5 経済成長率 (実質)

| | 2015 年 | 2016 年 | 2017 年 | 2018 年 | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経済成長率 (実質) | 4.8 | 5.0 | 5.1 | 5.17 | 5.02 | -2.07 | 3.69 | 5.31 | 5.05 |

(単位：%) (インドネシア政府統計)

6 物価上昇率（各年 12 月）

| | 2015 年 | 2016 年 | 2017 年 | 2018 年 | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 物価上昇率 | 3.4 | 3.0 | 3.6 | 3.1 | 2.7 | 1.6 | 1.8 | 5.51 | 2.61 |

（単位：％）（インドネシア政府統計）

7 総貿易額

| | 2015 年 | 2016 年 | 2017 年 | 2018 年 | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|
| 輸出 （億ドル） | 1,502.8 | 1,444.3 | 1,687.3 | 1,800.6 | 1,675.3 | 1,633.0 | 2,315.4 | 2919.0 | 2587.7 |
| 輸入 （億ドル） | 1,426.9 | 1,356.5 | 1,568.9 | 1,886.3 | 1,707.2 | 1,415.6 | 1,961.1 | 2374.5 | 2218.9 |

（単位：億ドル）（インドネシア政府統計）

8 貿易品目（総額、非石油・ガス）

(1) 輸出

鉱物性燃料（345.9）、動物・植物性油脂等（250.7）、非鉄金属（162.8）、鉄鋼（124.1）他

(2) 輸入

機械・機械設備（715.0）、鉱物性燃料（401.1）、工業製品（331.6）

（単位：億ドル）（2023 年、インドネシア政府統計）

9 貿易相手国・地域（総額、非石油・ガス）

(1) 輸出

中国（649.3）、米国（232.5）、日本（207.9）

(2) 輸入

中国（628.8）、シンガポール（184.1）、日本（165.2）

（単位：億ドル）（2023 年、インドネシア政府統計）

10 為替レート

1 ドル = 15,144 ルピア（2024 年 10 月 1 日、インドネシア中央銀行）

11 経済概況

1997 年 7 月のアジア通貨危機後、インドネシア政府は IMF との合意に基づき、銀行部門と企業部門を中心に経済構造改革を断行。政治社会情勢及び金融の安定化、個人消費の拡大を背景として、2005 年以降の経済成長率は、世界金融・経済危機の影響を受けた 2009 年や新型コロナの影響を受けた 2021 年を除き、5%後半～6%台という比較的高い成長率を達成。2019 年には一人当たり名目 GDP が 4,000

ドルを突破した。ただし、経常収支の赤字化や通貨安もあり、輸出促進による収支改善が課題。2022年は輸出入額共に過去最高記録を樹立。

経済協力

1 日本の援助実績

- (1) 有償資金協力 2,738.62 億円 (2022 年度)
- (2) 無償資金協力 2.97 億円 (2022 年度)
- (3) 技術協力 40.83 億円 (2022 年度、JICA 実施分のみ)

2 主要援助国

- (1) 日本 47.8%
- (2) ドイツ 20.8%
- (3) 豪州 15.2%
- (4) フランス 9.1%
- (5) 米国 7.1%

(2021 年 OECD/DAC (グロス)、%は二国間援助に占める割合)

二国間関係

1 政治関係

日本とインドネシアは 1958 年の外交関係開設以来、伝統的な友好国であると同時に、民主主義等の基本的価値や原則を共有する「包括的・戦略的パートナー」であり、日本は、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化に向けてインドネシアとの連携を重視している。2018 年には日・インドネシア外交関係開設 60 周年を迎え、各種の記念事業が実施された。

要人往来も活発に行われてきており、近年の往来としては、2023 年 6 月の天皇皇后両陛下による御即位後初の親善訪問や、2023 年 9 月の岸田総理大臣 (当時) による ASEAN 関連首脳会議参加のためのインドネシア訪問が行われたほか、インドネシアからは、ジョコ・ウィドド大統領 (当時) が 2023 年 5 月 (G7 広島サミット・アウトリーチ会合) 及び 2023 年 12 月 (日 ASEAN 特別首脳会議) に訪日する等、首脳レベルでの緊密な往来が実現している。

2023 年 9 月の日インドネシア首脳会談において、岸田総理大臣とジョコ・ウィドド大統領の間で、両国関係を包括的・戦略的パートナーシップに格上げすることで一致し、共通の関心を有する新たな分野での協力を含め、両国及び両国を越えた利益となるような具体的な協力により重点を置くことを確認した。

また、地域大国でもあるインドネシアとの協力は、地域の平和や安定にとっても重

要であり、安全保障・防衛協力分野では、2015年12月に日本とASEAN加盟国との間で初となる外務・防衛閣僚会合を開催し、2021年3月には第2回会合を開催した。第2回会合に際しては、防衛装備品・技術移転協定を締結した。

2 経済関係

(1) 対日貿易

ア 主要品目

日本への輸出：鉱物性燃料、鉱石、スラグ及び灰、電気機器等

日本からの輸入：一般機器・原子炉・ボイラー、輸送用機器、鉄鋼等

イ 貿易額（億円、財務省貿易統計）

| | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 |
|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 対日輸出 （億円） | 23,903 | 19,799 | 22,307 | 23,789 | 19,779 | 9,809 | 14,654 | 19,791 | 20,251 |
| 対日輸入 （億円） | 13,962 | 12,302 | 15,022 | 17,430 | 15,243 | 16,519 | 21,543 | 37,720 | 34,116 |

(2) 日本からの直接投資（実現ベース）（億ドル、インドネシア投資調整庁）

日本からの直接投資（億ドル）

| 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 28.8 | 54.0 | 50.0 | 49.5 | 43.1 | 25.8 | 22.6 | 35.6 | 記載なし |

3 在日インドネシア人

149,101人（2023年12月末現在：出入国在留管理庁統計）

4 在留邦人数

15,510人（2023年10月現在：外務省海外在留邦人数調査統計）

5 二国間条約・取極

1958年 日・「イ」平和条約

1958年 日・「イ」賠償協定

1963年 日・「イ」友好・通商条約

1963年 日・「イ」航空協定

1981年 日・「イ」科学技術協力協定

1982年 日・「イ」租税協定

2008年 日・「イ」経済連携協定

2019年 日・「イ」遺骨収集協定

2021年 日・「イ」防衛装備品・技術移転協定

以上

【事務局メモ】

- ・日本からインドネシアへの出発日、到着都市であったジャカルタの10月21日の気温は最高で33°C、最低で23°Cの間で推移しておりました。
また、同日の為替相場ですが、日本円100円は、約10,924 IDR（インドネシア・ルピア）でした。
- ・インドネシア視察 VISA（C2）は一人、7,215,000 ルピア ≒ 65419.625 円（現地への送金日の為替計算）かかりました。送金手数料なども含めて人数割にしたところ 66,003 円になりましたので、参加者の皆様には 66,000 円にてご請求させていただきました。

7.視察先・ホテル・レストラン情報

視察先

| 日付 | 名称 | 住所 | 電話番号 |
|-------------------|--|---|------------------|
| 2025/10/22 氷午前 | PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID(MM2100 工業団地事務所) | Kawasan industri MM2100 blok C, Jl. Sumatera, Gandasari, Kec. Cikarang Bar., Kabupaten Bekasi, Jawa Barat 17520 | +62 21 8981001 |
| 2025/10/22 氷午前 | PT. Sankei Gohsyu Industries(SGI) | MM2100 INDUSTRIAL TOWN BLOCK J8 CIBITUNG BEKASI WEST JAVA | +62 21 8980111 |
| 2025/10/22 氷午後 | P.T.日立建機インドネシア (PT Hitachi Constrction Machinery Indonesia) | Head Office / Cibitung 1 Factory: Jl. Raya Cibitung KM 48.8, Desa Kalijaya, Kec. Cikarang Barat, Kab. Bekasi 17530 - West Java | +62 21 8900515 |
| 2025/10/23 氷午前 | PT JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1(第一工場) | Jl. Raya Taman No.1, Desa Taman-Sepanjang, Kab, Sidoarjo, 61257 Jawa Timur | +62 31 7881139 |
| 2025/10/23 氷午後 | PT JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2(第二工場) | Jl. Mayjend Sungkono No.90, Desa Prambangan Kec. Kebomas Gresik, 61161 Jawa Timur Indonesia | +62 838 69524611 |

宿泊ホテル

| 日付・滞在都市 | 名称 | 住所 | 電話番号 |
|-------------------------------|---|---|-----------------|
| 10/21:IN 10/23:OUT (2泊) | ARTOTEL Gelora Senayan Jakarta (アートテルゲロラセナヤンジャカルタ) | Jl. Pintu Satu Senayan, Gelora, Kecamatan Tanah Abang, セナヤン, ジャカルタ, インドネシア, 10270 | +62 21 50959000 |
| 10/23:IN 10/24:OUT (1泊) | Bumi Surabaya City Resort (ブミスラバヤシティリゾート) | Jl. Jend Basuki Rahmat 106-128, スラバヤセンター, スラバヤ, インドネシア, 60271 | +62 31 5311234 |
| 10/24:IN 10/25:OUT (1泊) | Aloft Bali Kuta at Beachwalk (アロフトバリクタアットビーチウォーク) | Beachwalk Shopping Center, Jalan Pantai Kuta, Kec. Kuta, Kabupaten Badung, クタ, バリ島, インドネシア, 80361 | +62 361 2014888 |

利用レストラン

| 日付 | 名称 | 住所 | 電話番号 | その他情報 |
|-----------------------|--|---|------------------|-------------------------------|
| 2025/10/21 火 夕食 | Jin Mu Restaurant PIK (参加者全員で初食事) | Rukan Exclusive, Penjaringan, Jl. Pantai Indah Kapuk Jl. Marina Raya No.17 Blok B, RT.7/RW.2, Kamal Muara, Jkt Utara, Daerah Khusus Ibukota | +62 21 29032570 | 中華(点心)料理 |
| 2025/10/22 氷 昼食 | MM2100内レストラン「飛鳥」Asuka Restaurant | Jl. Jawa Blok GG, MM2100 Industrial Town, Cikarang Barat, Bekasi 17520, West Java | +62 21 8981450 | 視察先内レストラン (日本食お弁当) |
| 2025/10/23 氷 昼食 | KAYU Contemporary Japanese | Srijaya Building lantai 5, Jl. Mayjend Sungkono, No. 212-214, Putat Gede, Suko Manunggal | +62 31 5625603 | 日本食レストラン (現地駐在員ご褒美ランチ) |
| 2025/10/23 氷 夕食 | RIA GALERIA REST | Jl. Bangka No.2-4, Gubeng, Kec. Gubeng, Surabaya, Jawa Timur 60281 インドネシア | +62 31 5033737 | 東南アジア料理 絵画沢山有 レモンサワー持込み |
| 2025/10/24 金 夕食 | NEW DEWATA CAFÉ | Jl. Pantai Kedonganan, Jimbaran, Kedonganan, Kec. Kuta, Kabupaten Badung, Bali 80361 インドネシア | +62 819 99117551 | シーフード(焼き) 砂浜の上、常温コロンナツジュース |
| 2025/10/25 土 昼食 | Grand Puncak Sari | Jl. Raya Penelokan, Kintamani, Batur Tengah, Kec. Bangli, Kabupaten Bangli, Bali 80652 インドネシア | +62 6236651190 | ランチビュッフェ 種類豊富 |
| 2025/10/25 土 夕食 | Sugar & Spice (Aston Kuta Hotel & Residence内のレストラン) | Jl. Wana Segara, Kuta, Kec. Kuta, Kabupaten Badung, Bali 80361, インドネシア | +62 361754999 | ローストチキン他 |

8.写真

【10月21日（火）Day 1】



・ 集合時の様子



・ 最初の全員での食事、まずは名刺交換から



・ レストラン前で最初の集合写真

【10月22日（水） Day 2】



・視察先 1 社目で集合写真



・視察先 2 社目で集合写真



・昼食の様子



・視察先3社目で名刺交換タイム

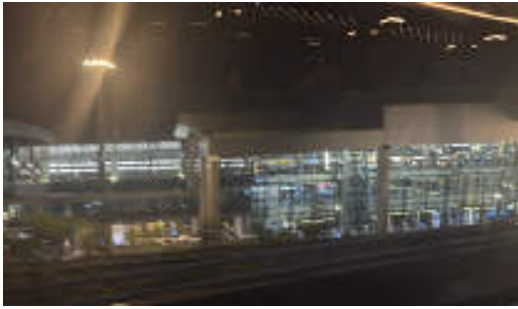


・視察中に強いスコールがあり、建物間移動を待機中のバスを来させての対応



・キャップと記念写真のお土産（横断幕を建機アームに掛けて準備いただきました）

【10月23日（木） Day 3】



・早朝の飛行機のため早起きで空港へ



・視察先4社目で恒例の名刺交換タイム

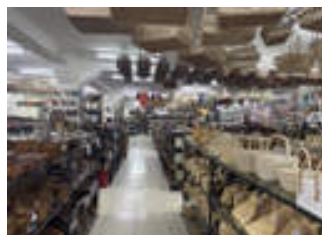


・昼食を一緒に懇親を深めました



・コピルアクのお土産をいただきました





・ホテル到着後、希望者のみ大きなお土産屋を訪れました

・手配した移動バス、夜は派手に変身

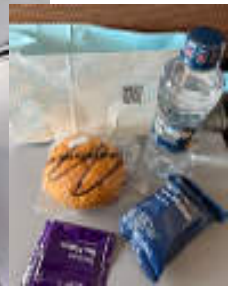


・視察先4社全てを終えての夕食、河村団長から挨拶の様子（視察先での挨拶・手土産のお渡しなどありがとうございました。）

【10月24日（金）Day 4】



・朝ホテルからの景色、靄んでいました



・朝の飛行機移動も慣れてきた様子



・LABUBUもバリ島到着を歓迎



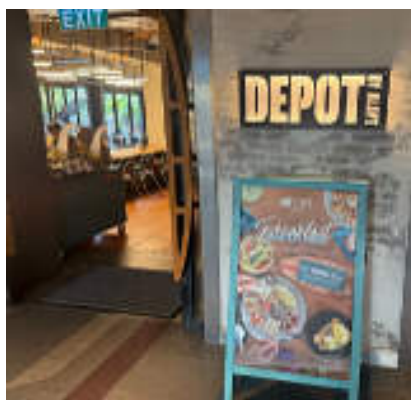
・ケチャックダンスを鑑賞



・ビーチでの夕食



【10月25日（土）Day 3】



・ホテルでの朝食



・ブサキ寺院で集合写真



・ 壮大な眺めを望める昼食場所



・ 棚田もオシャレなスポットに



・ ウブドで自由時間、ストリートの様子



・ 空港近隣のホテル内のレストラン



・ 全員で最後の食事



【10月26日（日）Day 6】



・ 深夜便で帰国へ、バリ免税店と機内食 お疲れ様でした！

9.参加者の研修報告書

2025年度海外視察研修（インドネシア）報告書

| ①訪問先別に印象に残った事、勉強になったことなど | |
|--|--|
| ● PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所) (10月22日 訪問) | インドネシア人はまじめで基本的に温厚だが、デモ等に傾倒すると一方的に集中してしまう習性があると教えて頂き、インドネシアは法律等に対する抗議デモが行われている理由を一部分ではあるが、理解できた。 レストラン飛鳥の食事がとても美味しかった。 |
| ● P.T.Sankei Gohsyu Industries (SGI) (10月22日 訪問) | 経営の考え方をローカルスタッフと読みあいながら会話を行うといった取り組みが行われており、将来を担う幹部も育成に力を入れている印象を持った。 現地も電気代や材料費が高騰しており、インドネシア生産のメリットが少ないと感じられた。 |
| ● P.T.日立建機インドネシア (P.T. Hitachi Construction Machinery Indonesia) (10月22日 訪問) | インドネシアも中国メーカーの勢いはすさまじく、HCMIとしても東南アジアのシェアを守っていく覚悟を感じた。 コスト意識も部品や原料だけでなく、社内コストも低減を行っているとおっしゃっており、コスト意識の重要性を改めて理解した。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1 (第1工場) (10月23日 訪問) | SNCMを製造しておらず、話を伺ったところ「トライしてみたが製造できなかった」と回答があり、非調質鋼も製造していないなど、三菱製鋼室蘭様と違った点も垣間見えた。 元々Indoprima Gr様（ばね関連の協力先）が圧延機は保持しており、現在もその圧延機を使用しているのは、初めて知れた。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2 (第2工場) (10月23日 訪問) | 三菱製鋼室蘭様と圧延システムデータ管理は共有しており、日本と同様の管理をできるように工夫されていた。 Indoprima Gr様が元々は平鋼を製造していたこともあり、平鋼の圧延は手慣れたようであったが、丸鋼を始める際は、駐在員の方も会社に寝泊まりするなど苦労された様子を伺えた。 |
| ②バリ島観光の感想や、自由行動で行ったところ&体験したことなど、差し支えなければ教えて下さい。 | 個人的にはバリ島で頂いた「ロブスター」が口に合わず、苦労した。 バリのビーチはとても開放感があり、素敵だった。 自由行動で行った、ジャカルタの韓国料理屋もとても美味しかった。 |
| ③今回の視察研修全体の感想 | |
| <p>まずは研修期間を通して参加者の皆さんと多くの時間を共有し交流を深めることができた点に感謝申し上げます。</p> <p>各視察先の方々も丁寧な説明と多くのもてなしを頂き、有意義な研修となった。</p> <p>訪問させて頂いた各企業様は現地の産業に深く根付いて、強みを生かした事業が行われていると強く感じた。</p> <p>この研修を生かして、特殊鋼業界の発展のために活かしていければと考えている。</p> | |
| ④今回他参加者との交流について (今回の感想と次回以降、他の参加者との交流をスムーズに実行できるアイデアがあれば) | 固定した参加者と話す機会が多かった為、次回からは参加者の全員と話せる機会が設けられたら良いと思いました。 例：食事の際にくじで席を決める等。 |
| ⑤次回、視察研修訪問先について (国内、海外問わず、希望場所や希望内容など) | 海外であれば、ドイツに行ってみたい。(個人的な興味で申し訳ないです) 国内はトヨタ自動車様や、愛知製鋼様・大同特殊鋼様があり、愛知県を視察してみたい。 |

| | |
|------|--------------|
| 御会社名 | 伊藤忠丸紅特殊鋼株式会社 |
| 御氏名 | 武田 健太 |

(一社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部

2025年度海外視察研修（インドネシア）報告書

| ①訪問先別に印象に残った事、勉強になったことなど | |
|---|---|
| ● PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所) (10月22日 訪問) | MM2100のエリアは、道路整備や警備を強化しており当初のインドネシアのイメージとは真逆であった。 文化の違い・人間性の違いはあるが、人員が確保出来る環境は日本と違う点など現地の実感を感じることができた。 |
| ● P.T.Sankei Gohsyu Industries (SGI) (10月22日 訪問) | 日本の品質・技術をインドネシアにと熱い思いで接していることが工場見学での現地スタッフとのやり取りを見て感じた。生産拠点の切り替えも考えられる観点から、日本での生産動向・海外での生産シフトに対して、情報アンテナを高くしなくてはならないと再度実感した。 |
| ● P.T.日立建機インドネシア (P.T. Hitachi Construction Machinery Indonesia) (10月22日 訪問) | SANY建機の中国メーカーの価格が3割も安い状況の中で足元はZX350H好調背景はあるが、かなり苦戦を強いられている様子との事で「日本の人員不足」の話は各社同様の話であり、AIではなく人の手でしかできない作業はまだまだ多いことから日本の人員不足による海外移管は、国内商売としては懸念材料と実感。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1 (第1工場) (10月23日 訪問) | 国内の三菱製鋼室蘭とはシステムやデータなどを共有しており連携を計っている話もあり、安定した品質・供給管理をできるよう現地スタッフともに意識が高い事を感じた。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2 (第2工場) (10月23日 訪問) | 将来的にはインドネシア国内でのエンジン関連小ロット対応など品質対応できるよう模索しており、介在物の混入率を下げる事ができれば最大の強みになるとの技術への取り組みも感じられた。 |
| ②バリ島観光の感想や、自由行動で行ったところ&体験したことなど、差し支えなければ教えてください。 | 観光場所であっても貧困の差を実感。 バリの良いイメージもあるが、物乞いなどまだ現地では見受けられた事が印象に残っている。 |
| ③今回の視察研修全体の感想 | |
| <p>今回の研修で人員確保の重要性や海外への生産シフトなど日本からの輸出減少懸念が、さらに強く感じられた経験となった。</p> <p>今回の経験を活かし海外向けの重要性を引き続きアンテナを高くしなくてはならないと実感。</p> | |
| ④今回他参加者との交流について (今回の感想と次回以降、他の参加者との交流をスムーズに行けるアイデアがあれば) | 記載なし |
| ⑤次回、視察研修訪問先について (国内、海外問わず、希望場所や希望内容など) | 記載なし |

| | |
|------|--------------|
| 御会社名 | 伊藤忠丸紅特殊鋼株式会社 |
| 御氏名 | 中嶋 優 |

(一社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部

2025年度海外視察研修（インドネシア）報告書

| ①訪問先別に印象に残った事、勉強になったことなど | |
|---|--|
| ● PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所) (10月22日 訪問) | 対応者：須藤様、加園様 広大な国土（日本の5倍）、豊富な資源（石油・石炭・鉱物） 人口：2億8,160万人（2024年IMF）、国土面積189万2,410km ² (2023年世界16位) MM2100工業団地総面積805ha、入居企業179社。 MM2100は110の工業団地、丸紅が60%出資 |
| ● P.T.Sankei Gohsyu Industries (SGI) (10月22日 訪問) | 対応者：青木様、戸田様、衣田様 出資企業：ゴースュー50%、三恵工業50% ・従業員：700名（男500名、女200名、日本人10名含む） 製品：二輪、四輪、農機具、建機の鍛造品及び機械加工、組立て作業 ＊工場内は材料加熱装置により、高温室になっておりハンマー鍛造ラインによる騒音が激しく作業環境が厳しい状況でした。従業員は非常に真面目でした。 |
| ● P.T.日立建機インドネシア (P.T. Hitachi Construction Machinery Indonesia) (10月22日 訪問) | 対応者：清水様、菊地様 出資者：HCM82%・外部18% 従業員：1,432名 主な製品：中型・大型シャベルカーの組立て。生産台数：20台/1日、年間4,400台 時間外労働時間：4.5h/日。＊各建屋毎に溶接作業、塗装作業、組立て作業、動作確認などの区分けがされていた。出荷先は、インドネシア国内が多く用途によって、アームの変更をしていた。中型シャベルカーで1,000万円 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1 (第1工場) (10月23日 訪問) | 対応者：沼川様、山本様、氏家様、佐藤様、伊集院様、斎藤様、入江様 三菱製鋼（株）が保有するPT.JATIM TAMAN STEEL MFG製の独占販売を活かし特殊鋼製品の販売をしている。主な品目：ビレット、平鋼、丸鋼。第一工場（製鋼工場）の特長は、適切なスラグコントロール、最新のLF、VD設備による低酸素、低水素化。製鋼能力は15,500トン、製本の特長：品質・コスト・物流・開発 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2 (第2工場) (10月23日 訪問) | 第一工場・第二工場合わせた従業員は、898名工場見学をした感じだと第二工場の方が従業員が多かった気がした。圧延工場・丸鋼精整工場では、第一工場から移動して来たビレットを加熱炉に通し圧延→冷却→コールドシャー→ロール矯正面取り→自動探傷→表示・結束→出荷のライン設備が設置されていた。工場内は小動物も多いため、所々に鼠があった。 |
| ②バリ島観光の感想や、自由行動で行ったところ&体験したことなど、差し支えなければ教えてください。 | 特にケチャックダンスは迫力があり、リズムなどホテルに帰るまで耳に残った。 自由時間では、6名でショッピングモールで昼食を取りその後、海岸沿いを散歩し民芸品の探索をしました。格差の激しい島でした。 |
| ③今回の視察研修全体の感想 | |
| 今回伺った企業を見ると安全面やDX・AIについては、日本より劣っていると感じました。ただ、工場内で作業している方の能力は高く当社の若者には真似が出来ないと思いました。三菱製鋼（株）を訪問した際は、大同特殊鋼を思い出す設備でした。弊社はステンレスを切断・成型をしているので、ステンレス以外の製造業を視察できた事に感謝します。 | |
| ④今回他参加者との交流について (今回の感想と次回以降、他の参加者との交流をスムーズに実行できるアイデアがあれば) | 現地での移動時間が長く感じました。参加者との交流は、問題ないと思います。自由行動での通訳の方を増やしたほうが良いと思います。 ホテルは、最高でした。 |
| ⑤次回、視察研修訪問先について (国内、海外問わず、希望場所や希望内容など) | ヨーロッパ・北米など製造業で職場環境や脱酸素に向けた取り組みを見たい。 |

| | |
|------|----------|
| 御会社名 | 株式会社 UEX |
| 御氏名 | 小沢 友彦 |

(一社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部

2025年度海外視察研修（インドネシア）報告書

| ①訪問先別に印象に残った事、勉強になったことなど | |
|--|---|
| ● PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所) (10月22日 訪問) | インドネシアは平均年齢が若く、人口ボーナス期に入っているということから、国力の強さは羨ましい。 ムスリムが多く占めることから、宗教色がどのように出ているかと思っていたが、犯罪が少ないなど良い方向に働いているようで、素敵なお国である。 |
| ● P.T.Sankei Gohsyu Industries (SGI) (10月22日 訪問) | 日本の冷間鍛造の技術を海外でも具現化出来ており凄い。 安全性においては日本と完全に同じレベルでのモノづくりをするまでにはまだ少し時間がかかりそうではある。 5Sや品質の考え方、作業への浸透はできていると感じた。 |
| ● P.T.日立建機インドネシア (P.T. Hitachi Construction Machinery Indonesia) (10月22日 訪問) | まずはそれぞれの部品の大きさが圧巻であった。 溶接や組付けも自動化が進んでいる半面、特注クラスの特大品はまだまだ手作業も残っており、「職人技」というものが海外でも継承されていると感じた。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1 (第1工場) (10月23日 訪問) | スラバヤ地区へのフライト後、すぐの工場見学ということもあり、やや疲れが残る中、目に入る情報が面白く興味をひいた。日本国内で圧延工場は見学したことがあるが、安全性を考慮しすぎた国内メーカーより間近で見学できたことは良い面に捉えられた。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2 (第2工場) (10月23日 訪問) | 製鋼工場においても第1工場（圧延）と同様に迫力のある距離での見学ができて満足した。 現地駐在の日本人の方々も日本とは異なる空気感での業務を前向きに取り組んでおられたように感じた。 |
| ②バリ島観光の感想や、自由行動で行ったところ&体験したことなど、差し支えなければ教えてください。 | ホテル周辺での買い物やビーチ沿いのレストランにて、休息を感じられてよかった。 もう少し自由時間が長いと更に嬉しい。 |
| ③今回の視察研修全体の感想 | |
| 工場見学だけでなく、懇親会の機会も多く、流通業界の交流会として大変満足であった。特に私は名古屋地区からの参加であった為、元々面識のある方や取引のある企業も少ない中、交流と見学の双方で有意義に感じた。 また機会をいただければぜひ参加したい。 | |
| ④今回他参加者との交流について (今回の感想と次回以降、他の参加者との交流をスムーズに行けるアイデアがあれば) | 視察の間はスケジュールがいっぱいであったこともあり、メンバー間での振り返りの時間が取れなかった為、帰国後に改めて懇親会などがあるといいと感じた。 |
| ⑤次回、視察研修訪問先について (国内、海外問わず、希望場所や希望内容など) | 部品メーカーや製鋼メーカー以上に、海外の鋼材流通に興味がある。 鋼材の保管、管理や切断を見れると嬉しい。 個人的にはAミツタル（ルクセンブルク）に興味あり。 |

| | |
|------|-----------|
| 御会社名 | 株式会社 Ntoc |
| 御氏名 | 桂木 哲平 |

(一社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部

2025年度海外視察研修（インドネシア）報告書

| ①訪問先別に印象に残った事、勉強になったことなど | |
|---|--|
| ● PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所) (10月22日 訪問) | ユーティリティサービスやファシリティは確立されており創業支援や地域社会への貢献、環境問題へも取り組まれており日本企業のみでなくインドネシアとしてもなくてはならない存在となっている印象を受けました。 |
| ● P.T.Sankei Gohsyu Industries (SGI) (10月22日 訪問) | 労働者の平均年齢の若さや正規雇用を求める労働者が多い事で、職場環境や省人化ではなく人海戦術でのビジネスといった印象を受けました。 また人の教育に関しては課題がある印象です。 |
| ● P.T.日立建機インドネシア (P.T. Hitachi Constrction Machinery Indonesia) (10月22日 訪問) | 中国企業の進出にて業界シェアに影響を及ぼしている。圧倒的な安価販売に対抗する為に原価低減や新製品開発差別化を図る事が課題となっている。 他のインドネシア工場と比べ安全面や人材育成が計画的に行われている印象を受けました。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1 (第1工場) (10月23日 訪問) | P.T.Sankei Gohsyu Industries (SGI) 同様に労働者の平均年齢の若さや正規雇用を求める労働者が多い事で、職場環境や省人化ではなく人海戦術でのビジネスといった印象を受けました。 テレビ等で見る昭和の日本といった印象が率直な意見になります。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2 (第2工場) (10月23日 訪問) | |
| ②バリ島観光の感想や、自由行動で行ったところ&体験したことなど、差し支えなければ教えてください。 | 数名でマッサージに行こうかとタクシーにて目的地に移動をしましたが交通渋滞がひどく、中止しホテルに隣接しているショッピングモールで昼食にて終わりました。 |
| ③今回の視察研修全体の感想 | |
| <p>この度は貴重な体験をありがとうございました。</p> <p>普段の生活や仕事では知る事の出来ないことを学ぶ機会となりました。生活、仕事共にひと昔前の日本といった感想が率直な意見となります。</p> <p>それらを経て安全面の改善や働きやすい環境、省人化がいまの日本に繋がっていると感じました。</p> | |
| ④今回他参加者との交流について (今回の感想と次回以降、他の参加者との交流をスムーズに実行できるアイデアがあれば) | 訪問終了後議題を設けグループディスカッション等を行って頂けると、研修の内容も濃くなりコミュニケーションの場にも繋がると感じました。 |
| ⑤次回、視察研修訪問先について (国内、海外問わず、希望場所や希望内容など) | インドも日系製造業が多いと耳にします。 |

| | |
|------|------------|
| 御会社名 | F-MAX 株式会社 |
| 御氏名 | 古川 領佑 |

(一社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部

2025年度海外視察研修（インドネシア）報告書

| ①訪問先別に印象に残った事、勉強になったことなど | |
|---|---|
| <p>● PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所) (10月22日 訪問)</p> | <p>丸紅が1990年に開発し始めた工業団地運営会社。 インフラ、工業用水の供給および排水処理、電力・通信・ガス、ホテル・レストラン経営などを行っている。その中でも職業専門学校を作り、開発地での先住民雇用や、日系メーカーで働ける人材育成まで手掛け、工業用地運営の一端を感じることが出来た。</p> |
| <p>● P.T.Sankei Gohsyu Industries (SGI) (10月22日 訪問)</p> | <p>国内でもお取引をさせて頂いているゴースー様グループの会社様です。 工場見学をさせて頂きまして、作業の方が実務に向き合う様子や整理整頓された工場内、見学者の安全確保としっかり挨拶をされる姿から長年に渡る教育の成果を目の当たりにできました。 また、鍛造・熱処理・ショット・旋盤加工まで日本国内と変わらない精度・品質を作り上げていることも伺えました。 現在は特に、現地従業員が管理・監督する立場となれるように指導されていると海外事業の成長に邁進されている様子でした。</p> |
| <p>● P.T.日立建機インドネシア (P.T. Hitachi Constrction Machinery Indonesia) (10月22日 訪問)</p> | <p>中国メーカーの東南アジア市場シェアが40%に到達し、生き残りをかけた原価低減が必要との話が印象に残っている。インドネシア国内は世界の建機需要の冷え込みとは異なり忙しい状況が続いているため、自国産業を守るインドネシア政府の方針に沿った提案を模索している状況。(油圧ショベル生産の約6割がインドネシア国内向け)</p> |
| <p>● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1 (第1工場) (10月23日 訪問)</p> | <p>電気炉2基(18t/20t)と製鋼工程を見学させて頂いた。 原料となるスクラップは鋼種ごとに最適な配合をしていることを知りました。 需要の多くはハネ鋼に使用されているようですが、将来的にエンジン部品に携わることを目標として日本に劣っている清浄度の向上に取り組まれているとのこと。インドネシアは小ロット需要が多いため規模を活かした成長方針をしっかりと定められておりました。</p> |
| <p>● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2 (第2工場) (10月23日 訪問)</p> | <p>圧延工場～丸鋼/平鋼を製造する工程を見学。 日本と遜色のない設備を有されており品質も全く問題ない様子。 元々の合弁先が平鋼のみの扱いで丸鋼が初めてであった為、製造に苦慮。 カリバーの取り扱いから矯正工程など手取り足取り指導を繰り返し昼夜問わずの製造を試みた結果、現地従業員ととことんやる姿勢を共有できたおかげで今もその精神が根付いているという話しが印象的でした。</p> |
| <p>②バリ島観光の感想や、自由行動で行ったところ&体験したことなど、差し支えなければ教えて下さい。</p> | <p>片道2h超のバス移動は中々疲れましたが、普段行けない様なバリ山中のヒンドゥー教寺院は、宗教が生活に根付いている事を肌で感じられました。 一方で、観光地には小物を販売する人達が多くおり、生活の為に必要なのであろうが、日本とは全く異なる格差を感じました。</p> |
| ③今回の視察研修全体の感想 | |
| <p>自社に関わるトラックメーカーの最重要販売国であるインドネシアを訪問する機会を得られ感謝いたします。 インドネシアの平均年齢は約30歳で日本より15歳も若い。人員募集をすればしっかり集まり、世界4位の人口と真面目な国民性を含めて明るい未来が感じられる古き良き昭和も感じさせる雰囲気であった。また、見かける乗用車・トラックも殆ど日本車で、古くから日本が関わってきた歴史を体感できたが、貧富の差は激しく、そこらで果物がなっているので食には困らないなど現地では分からない情報を得られることができ有意義な研修でありました。</p> | |

| | |
|--|--|
| <p>④今回他参加者との交流について (今回の感想と次回以降、他の参加者との交流をスムーズに実行できるアイデアがあれば)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・気遣いや話の拡げ方など、中々集まらないと思われる良いメンバーに恵まれました。特に視野の広い方が多かったです。 ・最初の自由行動時など、自分から声を掛けづらい人もおられたかもしれず、年長者であった自分がもう少し気遣いが出来ればと反省。 |
| <p>⑤次回、視察研修訪問先について (国内、海外問わず、希望場所や希望内容など)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・車分野で、EV化に向けて取扱増となる特殊鋼関連メーカー ・配送が困難となっていく中で、異業種でも集荷/配送で参考にさせて頂けるような運送拠点 |

| | |
|------|----------|
| 御会社名 | 大洋商事株式会社 |
| 御氏名 | 和田 卓 |

(一社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部

2025年度海外視察研修（インドネシア）報告書

| ①訪問先別に印象に残った事、勉強になったことなど | |
|--|---|
| <p>● PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所) (10月22日 訪問)</p> | <p>1990年設立で東京ドーム約170個分の面積、多くの日系企業の進出があり誘致だけではなく地域社会や環境に配慮した運営をしていた。工業用水の提供や通信、ガス、電力の供給をしており丸紅様のサービスの内容を把握できた。 インドネシアに関する概況や人間性など詳しく聞けました。</p> |
| <p>● P.T.Sankei Gohsyu Industries (SGI) (10月22日 訪問)</p> | <p>三恵工業、コーシューが各50%出資し1996年設立した二輪、四輪、農機具、建機向けの鍛造及び機械加工会社。四輪の足回りアフターパーツの機械加工、組み立ても行う。材料は7割が支給で自達は日本、中国、韓国より。月/3000トンの使用量がある。製品の錆に関しては高温、多湿の環境だが年間通して気候の変動が少なく日本より発生しないとの事。コストとしては自動化された日本企業と同等か若干の高値。但しインドネシア国内は人件費、昨年5% 今年7%のベースアップとなっている事とガス、電気代の高騰が続いており価格の見直しが必要。ハンマー鍛造、手動プレスラインでは機械の近くで見学ができ迫力がありましたが初めて見た手動の作業には危険も感じました。</p> |
| <p>● P.T.日立建機インドネシア (P.T. Hitachi Constrction Machinery Indonesia) (10月22日 訪問)</p> | <p>東南アジアへの販売を目的として設立。65%がインドネシア国内への販売となっているが中国メーカーのシェアが増加しておりHCM様はシェアを守る状況となっている。3割の価格差、販売方法の違い(中国企業は不具合発生も修理ではなく入れ替え)もあり苦戦。原価低減の活動をスタートしている。エチオピアのアフリカ最大規模のボレ国際空港建設で油圧ショベルEX350の特需があり多忙。累計生産台数は6万台を超えた。工場見学前、油圧ショベルを使い横断幕を設営していただき迫力のある建機に囲まれてHCM様で今後流行らせたいというポーズでの記念写真の撮影は良い思い出になりました。工場見学では日本国内では対応できない大型マイニング向けの部材や加工機や組み立てラインなど見学が出来た事と企業価値を高めるための再生事業(回収、洗浄、分解、再利用可否判定、加修、組立、性能試験、塗装、出荷)の取り組みの説明を受けました。</p> |
| <p>● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1 (第1工場) (10月23日 訪問)</p> | <p>千葉製作所にて製造していたトラックの板バネ用鋼種SUPだったが製造に人手、手間がかかり外注化を検討、2014年～インドプリアグループと三菱製鋼で同社へ資本投入、2018年に子会社化する。約900名体制。第一工場では製鋼～ピレット精整までの工程。SC、SCM、SCR、SMN、SUPなど。日本でも様々な製鋼工場の視察をさせていただいたがここまで近くで視察した事はありませんでした。電気炉まで制御室内ではあったが十数メートル、ピレット鑄造中や冷却場においては数メートルとしっかりと「熱」を感じる事が出来ました。現在の日本とは安全の基準に大きな違いがあり今後、体験出来ない貴重な視察となりました。</p> |
| <p>● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2 (第2工場) (10月23日 訪問)</p> | <p>製鋼工場同様に間近で圧延工程の視察が出来ました。 最終の視察となり移動の疲れと酷暑の中での視察で体力を奪われました。</p> |
| <p>②バリ島観光の感想や、自由行動で行ったところ&体験したことなど、差し支えなければ教えて下さい。</p> | <p>バリ島観光については現地の有名どころに行けて満足出来ました。 ただ、今回の視察は空路、陸路ともに長時間の移動となり本音は宿泊ホテル周辺での時間を多く欲しかったです。自由時間ではホテル隣接のショッピングモールで買い物し、初めて乗った現地の安全タクシー「blue bird」に乗り1時間ほど街中をドライブ、砂浜を少し歩いて海岸沿いで軽い食事をとりました。</p> |
| ③今回の視察研修全体の感想 | |
| <p>異業種の企業の見学でバランスの取れた見学となりました。インドネシアという国には驚きが非常に多かったです。 ジャカルタの街並み、二輪車と四輪車ともに日本車が大半、道路交通法の施行を疑う運転の粗さや信号の少なさなど。 観光については移動距離が非常に多く近場での自由時間がもっと欲しかったです。 内容の濃い視察研修を企画～準備～御同行いただき事務局、関係各社様、御礼申し上げます。</p> | |

| | |
|--|--|
| ④今回他参加者との交流について (今回の感想と次回以降、他の参加者との 交流をスムーズに実行できるアイデアがあれば) | 大半が初対面の方々でした。 遠方の方や参加者も多く日程調整等、困難かと思いますが団結式や報告会などの集まりがあると良いと思います。 |
| ⑤次回、視察研修訪問先について (国内、海外問わず、希望場所や希望内容など) | 宝武鋼鉄集団など中国の大手鉄鋼メーカー 国内外の半導体製造メーカー |

| | |
|------|----------|
| 御会社名 | 株式会社 鐵鋼社 |
| 御氏名 | 山片 康人 |

(一社) 全日本特殊鋼流通協会 東京支部

2025年度海外視察研修（インドネシア）報告書

| ①訪問先別に印象に残った事、勉強になったことなど | |
|--|---|
| <p>● PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所) (10月22日 訪問)</p> | <p>最初にMMID様に訪問出来て良かったと感じました。 インドネシアやインドネシア人の特徴を大まかに教えて頂いた為です。 インドネシア人は上の人から言われたらそれに従うというのは印象的でした。 その国によって個性があるという事を実感しました。</p> |
| <p>● P.T.Sankel Gohsyu Industries (SGI) (10月22日 訪問)</p> | <p>約3000t/月の鍛造量が多いと感じました。 ハンマーは3tまでという事で比較的小さい部品が多いのかなと感じました。 (これ以上大きいものはインドネシアでは需要少ないのかと思いました) 最も印象的だったのは経理手帳を社員全員で読み合っって意見交換をしているという事でした。経営層と社員と相互に認識を共通にしておける良い試みと感じました。</p> |
| <p>● P.T.日立建機インドネシア (P.T. Hitachi Construction Machinery Indonesia) (10月22日 訪問)</p> | <p>日本の日立建機様には良く訪問するので比較して見学することが出来ました。 見学では生産ラインに近づいて見学する事が出来、日本ではあまり見られない工程も見れたので非常に勉強になりました。人手には困らない、林業機需要が有ると聞く事が出来、現地に来たことでインドネシア特有の事情を理解する事が出来ました。生産は好調も中国メーカーのシェア増を危惧されておりその点の危機感も共有することが出来ました。日本に戻って原価低減に貢献できる手を打てるよう活動したいと思っています。</p> |
| <p>● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1 (第1工場) (10月23日 訪問)</p> | <p>人の手作業が多く、30年前の日本と言っていました、インドネシア特有かなと思いました。特に電気炉を傾けて出鋼する事（日本では電気炉の底から出鋼）やその前作業としての除滓作業は日本ではあまり見られないかと思います。 沼川社長はじめ皆様がとても丁寧に説明下さりとても分かりやすかったです。</p> |
| <p>● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2 (第2工場) (10月23日 訪問)</p> | <p>粗圧延がSRMでそのまま仕上圧延という工程で効率よく圧延工程まで進んでいる印象でした。圧延後は徐冷の為にカバーをかぶせているとの事で全鋼種やっているというのが印象的でした。（日本でも実施している工場は有ると思いますが全鋼種では無いように思います）日本の特殊鋼メーカーと比較しながら見学できたので非常に勉強になりました。</p> |
| <p>②バリ島観光の感想や、自由行動で行ったところ&体験したことなど、差し支えなければ教えて下さい。</p> | <p>食事はとても美味しかったです。量はとても多かったので食べるのが大変でした。どこへ行っても英語が通じたので、英語が出来ればコミュニケーションは困らないかなと思いました。車は皆運転が荒く、交通ルールも無秩序に近い感じでした。</p> |
| ③今回の視察研修全体の感想 | |
| <p>実際の業務に関わる工場を見学することが出来、また現地に来た事で理解できたことも有り、とても充実した視察訪問が出来たと感じています。どの会社に行っても大体話をされていたのが人手には困らないという点で、それは街中でも感じられ、レストランやホテルでも割いている人の数が日本とは全然違うなと感じました。インドネシアの方々には皆笑顔で絶やさず、どの方々にもこやかに接していただいた印象が有ります。 観光は必要ないかなと感じました。工場を視察、訪問して帰ってくれば良いかと思えます。</p> | |
| <p>④今回他参加者との交流について (今回の感想と次回以降、他の参加者との交流をスムーズに行うためのアイデアがあれば)</p> | <p>同業の方々との交流しそれぞれの会社事情を聴く事が出来ました。 名前と顔を一致させるのが大変だったのでその点何か良い工夫が出来ればと思います。 (いま自分自身頭に思い浮かぶアイデアは無いです)</p> |

| | |
|--|---|
| <p>⑤次回、視察研修訪問先について (国内、海外問わず、希望場所や希望内容など)</p> | <p>中国鉄鋼メーカーや部品メーカーを視察する研修が有ると良いと思いました。 中国メーカーはインドネシアや日本でも価格競争力を武器に進出してきており その根源を見学してみたいと感じています。</p> |
|--|---|

| | |
|-------------|------------------|
| <p>御会社名</p> | <p>中川特殊鋼株式会社</p> |
| <p>御氏名</p> | <p>亀井 信太郎</p> |

(一社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部

2025年度海外視察研修（インドネシア）報告書

| | |
|--|--|
| ①訪問先別に印象に残った事、勉強になったことなど | |
| ● PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所) (10月22日 訪問) | 工場で使用した水を再生し使用している点や工業団地全体のインフラ整備が進んでおり、道路・物流・電力供給などがしっかりと管理されている点に感心しました。 |
| ● P.T.Sankei Gohsyu Industries (SGI) (10月22日 訪問) | 製造現場の実際の様子を間近で見ることができ、大変貴重な経験となりました。 プレス鍛造・ハンマー鍛造を初めて見学させて頂き迫力がありました。 |
| ● P.T.日立建機インドネシア (P.T. Hitachi Construction Machinery Indonesia) (10月22日 訪問) | インドネシア国内向けが多い。 生産ラインでは、部品の組み立てや検査の各工程が見学でき人材育成の重要性を改めて学ぶことができました。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1 (第1工場) (10月23日 訪問) | 自動車部品や産業機械、建設機械などに使われている。一部、三菱精鋼(株)室蘭ピレットをインドネシア国内に運んで製造している案件もある事に驚きました。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2 (第2工場) (10月23日 訪問) | スクラップヤード～表示・結束まで一連を見学することはないのでとても良い経験になりました。 |
| ②バリ島観光の感想や、自由行動で行ったところ&体験したことなど、差し支えなければ教えてください。 | 有名なケチャックダンスを見る機会は中々ないのでとても良かったです。 |
| ③今回の視察研修全体の感想 | |
| <p>視察研修を通じて、普段の学びや業務では得られない貴重な経験をすることができました。</p> <p>見学以外でも皆様と交流がありとても楽しい視察研修でした。</p> <p>6日間ありがとうございました。日本でも宜しくお願い致します。</p> | |
| ④今回他参加者との交流について (今回の感想と次回以降、他の参加者との交流をスムーズに行うことができるアイデアがあれば) | 多くの方が初めましてでしたが、丁度いい人数だったので色々な方と話す事ができとても充実いたしました。 |
| ⑤次回、視察研修訪問先について (国内、海外問わず、希望場所や希望内容など) | インドネシア マレーシア タイ |

| | |
|------|-----------|
| 御会社名 | ノボル鋼鉄株式会社 |
| 御氏名 | 福田 翔太 |

(一社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部

2025年度海外視察研修（インドネシア）報告書

| | |
|--|---|
| ①訪問先別に印象に残った事、勉強になったことなど | |
| ● PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所) (10月22日 訪問) | 平均年齢30.1歳・世界第4位になるまでの人口増加・消費拡大、石炭・石油の輸出による安定的な貿易黒字、BYD (中国車) の国内生産増と発展途上中の国である中、街中はまだまだ整備されていない部分も多く、相続税がない国という事で貧富の格差の大きさを感じました。 |
| ● P.T.Sankel Gohsyu Industries (SGI) (10月22日 訪問) | 自動検査機を活用する一方で人的検査もまだまだ多くある中、検査工程に関しては意図的に女性を多く配置する事で不具合品流出低減を実施、現地人への技術の継承と共に経営理念に対して冊子を用いて「伝える時間」を確保し、同じ方向を向かせる努力に感銘。 |
| ● P.T.日立建機インドネシア (P.T. Hitachi Construction Machinery Indonesia) (10月22日 訪問) | 中国メーカーが追隨してきており、現状東南アジアシェアの40%を占められている。主な要因は「価格」、そこに対しては原価低減による価格勝負・得意分野での差別化・新たな武器の確立と自分自身が携わっている業態とも共通していると認識する事ができました。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1 (第1工場) (10月23日 訪問) | 製鋼工場内の仕組みと致しましては、まだまだ自動化の部分が国内と比べては少なく、約30年前の日本の状況であるとの事でした。非常に多くの危険作業がまだまだ存在する中、しっかりとルールを守り、統率が取られている環境を強く感じる事ができました。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2 (第2工場) (10月23日 訪問) | 庄延・精製工場内、現状は30代～40代の現地人が中心となって活躍されていました。しかしながら、この状況をつくるまでには日本人駐在員たちが会社で寝泊りをしながら、24時間指導を続けてきた背景を聞き、たゆまぬ努力の結晶に感動致しました。 |
| ②バリ島観光の感想や、自由行動で行ったところ&体験したことなど、差し支えなければ教えて下さい。 | 観光地という事もあり、クタビーチ、海岸沿いのレストランで非常にリラックスする事ができました。 ジャカルタと違って酒・たばこにも寛容。 |
| ③今回の視察研修全体の感想 | |
| <p>今回の様な泊りでの視察研修に参加させて頂くのは初めての経験でした。</p> <p>海外工場・インドネシアという国の学びももちろんたくさんありましたが、それ以上に今まで交流のなかった全特協の方々との触合いに感謝し、今後の活動に活かしていきます。</p> | |
| ④今回他参加者との交流について (今回の感想と次回以降、他の参加者との交流をスムーズに実行できるアイデアがあれば) | 観光も含めて非常に多くの場所に連れて行って頂けてありがたかった一方、各場所の滞在時間が短く、幅広い交流が難しかった印象です。 |
| ⑤次回、視察研修訪問先について (国内、海外問わず、希望場所や希望内容など) | ヨーロッパ |

| | |
|------|--------------|
| 御会社名 | 藤巻鋼材株式会社 名古屋 |
| 御氏名 | 荻野 芳崇 |

(一社) 全日本特殊鋼流通協会 東京支部

2025年度海外視察研修（インドネシア）報告書

| ①訪問先別に印象に残った事、勉強になったことなど | |
|---|--|
| <p>● PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所) (10月22日 訪問)</p> | <p>インドネシアの基本状況およびMM2100工業団地について説明を受けました。インドネシアは人口が増加傾向にあり、日本と異なり20～30代の働き手が多いことが特徴です。現在は中国電気自動車メーカー（BYD）向けの仕事が多く、日本で主流となっているテスラ向け案件とは大きく異なる点が印象的でした。MM2100は丸紅様が運営する工業団地で、主に二輪・四輪・建機メーカーなどの日系企業を中心に誘致されています。近年ではデータセンサー関連企業の進出も増えており、現地産業の変化・高度化が進んでいることを感じました。</p> |
| <p>● P.T.Sankel Gohsyu Industries (SGI) (10月22日 訪問)</p> | <p>SGI様は、三恵工業様とゴッシュー様が提携して運営されている鍛造メーカーでした。いずれも滋賀県の企業であり、私自身も10年間滋賀営業所に在籍していたことから、非常に親近感を覚えました。業務内容自体は日本と大きな差はありませんでしたが、売上は右肩上がり、新規金型の生産台数も毎月かなりの量を製作されており、市場規模の大きさに驚かされました。また、日本では別会社として運営されているものを、インドネシアでは一体的に運営している点が印象的で、これが高い生産効率と成長につながっているのだと学びました。</p> |
| <p>● P.T.日立建機インドネシア (P.T. Hitachi Constroction Machinery Indonesia) (10月22日 訪問)</p> | <p>日立建機様では、インドネシア向けのマイニング機械（ショベル）を製造されていました。日本国内向けと比べるとサイズが格段に大きく、そのスケールの違いが印象的でした。生産比率はインドネシア向けが約6割、その他は主に東南アジア向けとのこと。一方で、近年は中国メーカーのシェアが約4割に達しており、建機産業においても日本の部品メーカーと同様の競争環境が生じている点に驚かされました。中国メーカーは低価格を武器に市場を拡大しており、品質で勝負するしかないという状況は、私たちと同じ課題を抱えていると感じました。今後は中国メーカーの品質もさらに向上し、最終的には納期対応力で競う時代が到来する可能性を強く感じました。</p> |
| <p>● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1 (第1工場) (10月23日 訪問)</p> | <p>第一工場は製鋼場で、スクラップを原料としてビレットを製造されていました。今回初めてビレットの製造工程を見学し、廃棄物となるスクラップを再利用して新たな製品を生み出すプロセスに強い関心を持ちました。日本ではこうした工程を見る機会が少ないため非常に新鮮でしたが、現地担当者からは「昔の日本を思い出す」との話もあり、インドネシアが20～30年前の日本の産業発展の過程を辿っている印象を受けました。</p> |
| <p>● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2 (第2工場) (10月23日 訪問)</p> | <p>第二工場は圧延・精整場で、第一工場で製造されたビレットを原料に、平鋼および丸鋼を生産していました。出荷先の構成は、インドネシア向けが約70%、タイ向けが約20%、残りが日本を含むアジア各国向けとのことでした。インドネシアでは人口および事業活動が拡大している一方で、生産量はピーク時の月産12,000トンから現在は約7,000トンへと減少しており、下降傾向にあると伺いました。この点は、国全体の成長感と生産現場の実態とのギャップとして非常に印象的でした。</p> |
| <p>②バリ島観光の感想や、自由行動で行ったところ&体験したことなど、差し支えなければ教えてください。</p> | <p>視察後は、バリ島での観光日程を設けていただき、ケチャックダンスの鑑賞および寺院巡りを行いました。自由行動の時間は多くありませんでしたが、近くのモールでインドネシア料理を味わうことができ、現地の文化と食を体験する貴重な機会となりました。</p> |

| | |
|--|---|
| ③今回の視察研修全体の感想 | |
| <p>今回の視察を通じて、発展途上国での産業の現状や成長のスピード、また市場の競争環境を肌で感じることができました。現地の企業の取り組みや市場規模を目の当たりにし、日本との違いや学ぶべき点を多く発見しました。また、中国企業の低価格戦略など、グローバル競争の厳しさも改めて実感しました。</p> <p>今回得られた知見や気づきを、今後の業務や新たな市場への理解に活かしていきたいと考えています。今回の視察は、現場で自分の目で見て感じることの重要性を実感できた貴重な機会となりました。</p> | |
| ④今回他参加者との交流について (今回の感想と次回以降、他の参加者との交流をスムーズに実行できるアイデアがあれば) | <p>インドネシア到着初日の夜には名刺交換の機会があり、初日から他の参加者の方々と交流を持てたことは大変良かったです。しかし、それ以降は過密な日程による移動疲れもあり、参加者同士で深い交流を持つ機会はあまり多くありませんでした。</p> <p>今後の視察では、日替わりで3~4名のチームを編成し、協力して取り組むようなワーク（例：視察先企業に入社した場合のサービス提案など）を行うと、より積極的な意見交換や交流促進につながるのではないかと感じました。</p> |
| ⑤次回、視察研修訪問先について (国内、海外問わず、希望場所や希望内容など) | <p>今回の視察では、自動車および建機関連の企業を中心に見学させていただきましたが、今後は世界的に成長が著しい半導体分野にも関心を持っています。特にTSMCやエヌビディアをはじめとする半導体製造関連企業の取り組みを学ぶことで、今後のものづくり産業の方向性や新たなビジネスチャンスを考える良い機会になると感じました。</p> |

| | |
|------|------------|
| 御会社名 | 藤巻鋼材大阪株式会社 |
| 御氏名 | 中嶋 瑛二 |

(一社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部

2025年度海外視察研修（インドネシア）報告書

| ①訪問先別に印象に残った事、勉強になったことなど | |
|---|--|
| <p>● PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所) (10月22日 訪問)</p> | <p>PT. MEGALOPOLIS MANUNGGAL INDUSTRIAL DEVELOPMENTは、インドネシア・ブカシ県にある工業団地の「MM2100」の管理会社。</p> <p>インドネシアの概況及びMM2100概況の説明をしていただきました。</p> <p>インドネシアはASEAN最大、世界4位の人口の2億8千万人で豊富な資源、労働コスト充実したインフラがありASEAN諸国の中でも高い潜在的な成長力を秘めているという印象を受けました。</p> |
| <p>● P.T.Sankei Gohsyu Industries (SGI) (10月22日 訪問)</p> | <p>P.T.Sankei Gohsyu Industries社を訪問・見学させていただきました。</p> <p>現地工場では金属プレス加工などの製造工程を中心に見学させていただき、同社の生産体制や品質管理、現地職員への教育などの取組みを詳しく学ぶことができました。</p> <p>印象的だったのは日本式の品質管理手法をベースにしながらも現地の環境や人材に合わせた柔軟な運用を行っている点です。</p> <p>現地化と日本品質の両立を目指して日々努力されている印象を受けました。</p> |
| <p>● P.T.日立建機インドネシア (P.T. Hitachi Construction Machinery Indonesia) (10月22日 訪問)</p> | <p>現地工場では油圧ショベルを中心とした建設機械の製造工程を視察し、同社の生産体制、品質管理現地人材育成の取組みについて理解を深める事が出来ました。</p> <p>自動化ラインと手作業がバランス良く組み合わせられており製品の多品種少量生産にも対応できる柔軟性を備えているなど印象に残りました。</p> <p>また溶接や塗装工程では高い品質を維持しており世界各国への輸出を支える生産拠点としての重要性を改めて実感しました。</p> |
| <p>● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1 (第1工場) (10月23日 訪問)</p> | <p>PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. では特殊鋼・合金鋼などの生産を中心に行っておりインドネシア国内の鉄鋼業界の中でも高品質な製品を提供するメーカーとして位置付けられています。</p> <p>今回の見学では溶解から圧延までの主要工程を視察し、現地生産体制や品質管理の実態について理解を深めることが出来ました。</p> <p>印象的だったのは溶解から二次精錬、連続鋳造、圧延まで一貫生産体制が確立されている点です。各工程が効率的に連携しており歩留まりやエネルギー効率が積極的に行われていました。</p> |
| <p>● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2 (第2工場) (10月23日 訪問)</p> | <p>第二工場では特に圧延・加工工程を担う主要拠点として位置付けられています。</p> <p>印象的だったのは製品検査体制の強化とトレーサビリティの確立が進められており、各ロットごとの品質データが記録・管理されています。</p> <p>製品不良の早期発見や原因分析が迅速に行える体制が整っていました。特に圧延後の寸法精度や表面品質に関しては、日本企業の技術指導が活かされている印象を受けました。</p> |
| <p>②バリ島観光の感想や、自由行動で行ったところ&体験したことなど、差し支えなければ教えてください。</p> | <p>自然の美しさや独自の文化に触れる貴重な体験をすることが出来ました。</p> <p>現地では寺院や伝統舞踊、バリ料理などを通じてインドネシアの中でも特に個性豊かな文化を感じることが出来ました。</p> <p>自由行動ではたくさんのお土産屋さんに行きました。現地の販売員のたたき売りと言いますか、価格交渉なども良い体験になりました。</p> |

| | |
|---|---|
| ③今回の視察研修全体の感想 | |
| <p>このたびインドネシア研修に参加し貴重な学びと多くの刺激を得ることが出来ました。</p> <p>現地の産業は近年急速に発展しており、その背景には政府のインフラ投資拡大と国内需要増加があります。</p> <p>実際に現地の日系企業の生産設備や工程を視察することで日本とは異なるスピード感やコスト意識を肌で感じる事が出来ました。</p> <p>今回の研修で得た知識や気づきを今後の業務に活かしていきたいと思えます。</p> | |
| ④今回他参加者との交流について (今回の感想と次回以降、他の参加者との交流をスムーズに実行できるアイデアがあれば) | 他参加者の方々、世代もそれほど離れておらずとても楽しく過ごす事が出来ました。初日の会食事に一斉に名刺交換をするので名札的なものがあるとよりスムーズに交流できるなと思いました。 |
| ⑤次回、視察研修訪問先について (国内、海外問わず、希望場所や希望内容など) | 自動車製造ラインなど |

| | |
|------|------------|
| 御会社名 | ヤマト特殊鋼株式会社 |
| 御氏名 | 中西 悠太 |

(一社) 全日本特殊鋼流通協会 東京支部

2025年度海外視察研修（インドネシア）報告書

| ①訪問先別に印象に残った事、勉強になったことなど | |
|--|--|
| ● PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所) (10月22日 訪問) | インドネシア国内の経済概況や人口状況・国民事情について何う事ができ大変勉強になりました。ジャカルタの街を歩いた中で、若い世代が非常に多いという点が日本と対照的だと実感しました。工場用水の浄化事業においては、バクテリアを用いたエコシステムに注力されており、環境問題に対する姿勢は世界共通なのだと感じました。管理運営をされているレストランで日本食をご馳走になりましたが、どの料理も大変美味しかったです。 |
| ● P.T.Sankel Gohsyu Industries (SGI) (10月22日 訪問) | 現地ローカルスタッフが作業している熱間鍛造加工を間近で見学する事ができ、勉強になりました。英語はあまり普及していないという事で、駐在員の方がインドネシア語でスタッフとコミュニケーションを取っている姿が印象的でした。熱間鍛造加工という比較的危険が多い職場でも離職率が非常に低いが、その背景には日系企業への人気が集（雇用の安定性や待遇面）しているという点も印象に残りました。 |
| ● P.T.日立建機インドネシア (P.T. Hitachi Construction Machinery Indonesia) (10月22日 訪問) | ショベルカーが出来上がる工程を順に見学しましたが、まず工場敷地面積の広さに圧倒されました。厚板の鋼板をローカルスタッフの手で溶接して各部品を製造している場面が多くあると感じ、中には非常に大きなサイズの部品を溶接している姿を見て、素人目線ですが作業者の技術力を感じました。また建設機械の世界でも、中国企業とのコスト競争により厳しい状況となっている点も勉強になりました。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1 (第1工場) (10月23日 訪問) | 機械構造用炭素鋼（棒鋼・平鋼）・ばね鋼における溶解工程～ビレット製造を見学しましたが、溶解工程では人の手で一部原料を電気炉に投げ入れていたり、酸化スラグを木製の道具を使って除去していた場面が印象的でした。駐在員の方より、日本における30年前の手法を流用しているとの事であり、まだまだ人の手で成り立っている部分の大きかったです。今後はグリーン電力の購入による環境活動にも注力していきたいとの事でしたが、環境課題への取り組みは日本と同じであると思いました。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2 (第2工場) (10月23日 訪問) | 第1工場で完成したビレット鋼を熱間圧延して、最終製品である丸棒や平鋼になるまでを見学しました。熱処理を施したビレット鋼が一貫した圧延ライン（粗圧延～連続圧延）を通過して、最終製品の形状まで仕上がる様子を見る事ができました。駐在員の方が「当社含めて日系企業には人気が集まっている為、労働力は非常に集まりやすい」とコメントされており、ここでも日系企業のブランド力を感じました。 |
| ②バリ島観光の感想や、自由行動で行ったところ&体験したことなど、差し支えなければ教えて下さい。 | バリ島も初めて訪れた場所になりますが、落ち着いた空間が広がっている観光地に感じました。沿岸部にはビーチや充実したショッピングモール、内陸部にはビーチや充実したショッピングモール、内陸部には山岳やヒンドゥー教の寺院があり、それぞれ訪問する事ができて大変充実した観光になりました。 |
| ③今回の視察研修全体の感想 | |
| 初めてインドネシアに訪問した中で、人口密度の高さ（特に若い世代の多さ）や小型スクーターや自動車の交通状況・文化や料理など、日本との対比を様々な場面で実感する事が出来ました。ジャカルタやスラバヤの都市部は非常に発達していて、インドネシアという国の勢い強さを感じた一方で、貧富の格差や日本と比べて人海戦術で成り立っている部分も多くあると思いました。今回、業種の異なった複数の企業を視察させていただいた中、それぞれで実感する事が多々あり、非常に充実した視察研修でありました。 | |
| ④今回他参加者との交流について (今回の感想と次回以降、他の参加者との交流をスムーズに実行できるアイデアがあれば) | 初日の懇親会の他、参加者全員で食事を行う機会が多く設けられており、自然と多くの方々と交流する事ができました。バリ島観光も全員で観光地を巡るスケジュールで楽しい時間を過ごす事が出来ました。 |

| | |
|---|---|
| <p>⑤次回、視察研修訪問先について (国内、海外問わず、希望場所や希望内容など)</p> | <p>ASEAN諸国内の対比を目的として、ベトナムやタイ地域の視察を希望致します。 (今回のような、それぞれジャンルの異なる企業を複数視察できると尚嬉しいです。)</p> |
|---|---|

| | |
|-------------|-----------------|
| <p>御会社名</p> | <p>リントツ株式会社</p> |
| <p>御氏名</p> | <p>加藤 大輔</p> |

(一社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部

2025年度海外視察研修（インドネシア）報告書

| ①訪問先別に印象に残った事、勉強になったことなど | |
|--|--|
| <p>● PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所) (10月22日 訪問)</p> | <p>丸紅が60%出資、面積805ha（東京ドーム173個分）、入居企業192社（日本66%、インドネシア23%、その他） 業種：自動車が大半、二輪車32%、スチールメタル14%、他、冷凍・冷蔵倉庫など 平均年齢30.1歳（日本49歳） 貿易：石炭/石油、パーム油、鉱石/金属 その他：相続税なし（貧富の差が激しい） 人種：自ら考えて行動しない、指示すれば真面目に取り組む、団結心が強い、報連相なし、時間にルーズ中国との経済の結びつきが強い、（車の工場拡大（BYD）、ニッケル投資/牛耳られる危機感あり）</p> |
| <p>● P.T.Sankei Gohsyu Industries (SGI) (10月22日 訪問)</p> | <p>出資比率 ゴーシュー：50%、三恵工業：50% Gr従業員735名（3割女性）、材料自達は25%程度検査や細かな作業は女性中心に配置。法律で残業や休日出勤の手当てが決まる（通常時給の2～5倍）労働生産性はASEAN諸国の中でも低いが、人件費は年々UPしコストが高い（2024年の昇給率7%）技術開発など自分たちで考えさせる事が急務、近年は安全委員会などに現地の若手も交えスキルUPに繋げている。見積は多数来るが決まらない、これからは営業員を現地に配置し注文を取りに行く方向にあり。</p> |
| <p>● P.T.日立建機インドネシア (P.T. Hitachi Constrction Machinery Indonesia) (10月22日 訪問)</p> | <p>1991年創業（34年目） 82%を日立が出資 日本人/17人が駐在 2025年/440台目標（小中型/月産20台、大型/月産10台）、販売先/林業5割、農業、鉱山と続く中国メーカーの東南アジア市場シェアは40%（3割安く、アフターサービスが良い（修理ではなく交換））生き残りをかけた原価低減が必要、スペックを落としてでも中国のシェアを取りに行く方向にあり。</p> |
| <p>● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1 (第1工場) (10月23日 訪問)</p> | <p>出資比率 三菱製鋼75%、第一工場/溶解、ピレット（160角） 製鋼能力：15,500トン/月 三菱/市原から、2008年に移管 日野、三菱ふそう向けのばね鋼がメイン 移管当初は、ピレットを室蘭から輸送⇒2014年ジャテムを買収しピレットを作る。 月7～8千トン/ばね鋼、月4.5千トン/丸棒（90φ迄） 出荷先 国内/7割 タイ/2割、日本/ごく一部</p> |
| <p>● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2 (第2工場) (10月23日 訪問)</p> | <p>第2工場 圧延能力：18,500トン/月、丸棒精整能力：4,500トン/月 丸棒：19～90φまで、平角：厚5～45/幅50～130mm 目標圧延12,000トン→直近は7,500トン 内需が低調 3動3直/休みは日曜日のみ、グリーンインダストリーの取得を目指す（現在75%が火力⇒0を目指す。） 感想、設備は日本メーカーに劣らない、エンジニアが若く今後の技術革新に期待。</p> |
| <p>②バリ島観光の感想や、自由行動で行ったところ&体験したことなど、差し支えなければ教えて下さい。</p> | <p>主要道路が少なく想像を超える渋滞、限られた時間の中で移動時間が長く、もったいないと感じた。信号もない交差点や横断歩道でもトラブルがないように見受けられ、譲り合いの精神に感心した。 お金の価値について考えされた、（時、人、物によっては購入してしまう）、今後の商売に活かしたい。</p> |
| ③今回の視察研修全体の感想 | |
| <p>インドネシアの現状と進出されている企業の実情を直接伺うことができ大変勉強になりました。首都ジャカルタでは、地盤沈下、交通渋滞などの問題により、ヌサンタラへ首都移転を進めており2045年の完成を目指している。首都移転ではインフラなど新たなビジネスチャンスをもたらす可能性が大きい。また、また、人口ボーナス（平均年齢が30.1歳と若く活気あり）、資源（ニッケルなど）、地理（アジアの中心）から、今後の動向に注目したい。</p> | |
| ④今回他参加者との交流について | |
| <p>（今回の感想と次回以降、他の参加者との交流をスムーズに実行できるアイデアがあれば）</p> | <p>結団式などを実施し、事前に顔合わせを行う。 バスの席順をくじ引きで決める（日替わりなど）、自然に固定になり広く会話ができた。</p> |

| | |
|---|--|
| ⑤次回、視察研修訪問先について (国内、海外問わず、希望場所や希望内容など) | アメリカ/USスチール、実情と今後の展望を聞きたい。 二次加工メーカー (ピーリング、異形、引抜、研磨、溶接など) |
|---|--|

| | |
|------|-----------|
| 御会社名 | 令和特殊鋼株式会社 |
| 御氏名 | 鈴木 利彦 |

(一社) 全日本特殊鋼流通協会 東京支部

2025年度海外視察研修（インドネシア）報告書

| ①訪問先別に印象に残った事、勉強になったことなど | |
|--|--|
| ● PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development MMID (MM2100 工業団地事務所) (10月22日 訪問) | インドネシアは国民の平均年齢が29歳と若く、人口ボーナスにより中間層の生活が向上しているそうです。内需が強く、通勤などに使用されるバイクや自動車の販売も伸びているそうです。日本は中国のEVメーカーBYDなどとの競争に打ち勝ち、シェアを死守して行く事になりそうです。 |
| ● P.T.Sankel Gohsyu Industries (SGI) (10月22日 訪問) | 熱間での鍛造作業は暑さや騒音や匂いなど作業員にとって過酷な労働条件が重なっているように感じました。弊社もガス溶断や熱処理など高い温度帯での作業があり、身近に感じました。剥き出しのハンマーで製品を打ち付けておりましたが、安全面もより強化していくそうです。 |
| ● P.T.日立建機インドネシア (P.T. Hitachi Construction Machinery Indonesia) (10月22日 訪問) | 日本国内での中型ショベルの生産量が減少しているのは客先より聞いていましたが、インドネシアでもSANYグループの参戦もあり、受注量やコスト面で厳しい競争をしている話を聞きました。3割近いコスト差があり、インドネシアの人海戦術も限界がある事を感じました。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 1 (第1工場) (10月23日 訪問) | スクラップを日本やシンガポールから輸入しており、量産よりも中心偏析や介在物の除去など品質にこだわりを持って生産されている事に好感が持てました。カーボンニュートラル鋼材の生産にも力を入れているそうで現地での需要を取り込んでほしいです。 |
| ● PT.JATIM TAMAN STEEL MFG. Plant 2 (第2工場) (10月23日 訪問) | 第一工場・第二工場ともに親切に工場案内をして頂きました。電炉がフル稼働しており、製造工程から検査工程まで熱気が凄かったです。お昼に日本食をご馳走になりました。現地で働く日本の駐在員の方々も日本食や祖国が恋しくなる事があるそうです。 |
| ②バリ島観光の感想や、自由行動で行ったところ&体験したことなど、差し支えなければ教えてください。 | 華やかなビーチウォークショッピングセンターでの土産や買い物体験した一方で冷房の効いていないコンビニがあり、従業員が床に座り食事をしていた光景はショックを受けました。 |
| ③今回の視察研修全体の感想 | |
| <p>発展途上国であるインドネシア視察研修は恵まれた環境下にある日本との違いを肌で感じさせてくれました。宗教・政治・経済・インフラ・国民の生活に至るまで日本とは比べ物にならない程厳しい状況だと思いました。</p> <p>少子高齢化の進む日本とは対照的に若い人材が豊富なインドネシアとの今後の協力は不可欠だと思います。双方にとって良好な外交関係を継続してほしいです。</p> | |
| ④今回他参加者との交流について (今回の感想と次回以降、他の参加者との交流をスムーズに行うことができるアイデアがあれば) | <p>団長が笑顔で接し、視察先でも率先して行動したり質疑応答をすれば当事者意識の高い方はすぐに協力してくれると思います。</p> <p>大人しい方もそれを見て行動してくれると思います。</p> |
| ⑤次回、視察研修訪問先について (国内、海外問わず、希望場所や希望内容など) | 費用の負担は大きいですが、今回のように成長著しい海外の発展途上国を視察する事が、知識だけでなく体力的にも精神的にも成長すると思います。危険察知能力も身に付くと思います。 |

| | |
|------|----------|
| 御会社名 | 株式会社ヤマコー |
| 御氏名 | 河村 康史 |

(一社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部

10.編集後記

(一社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部の内外交流部会にて、今年度はインドネシアへ海外視察研修を実施させていただきました。

視察先選定にあたっては内外交流部会 部会長の伊藤忠丸紅特殊鋼株式会社 代表取締役社長 森川和俊 様が調整役となり、視察先各社のご担当者と打ち合わせのうえ 4 社に決定いたしました。

現地では日本人駐在員の皆様に会社説明と工場内のご案内をしていただきました。お陰で知見が広がる視察となりましたこと、あらためて御礼申し上げます。

また、参加者の皆様にあたりましては、390,000 円の参加費に加え、C2 ビザ取得のための赤背景の証明写真のご用意など、事前の準備にご協力いただき誠にありがとうございました。当初は募集人員の達成に苦慮しておりましたが、東京支部支部長、内外交流部部会長、および運営委員の皆様による各社への積極的なお声かけ、ならびに名古屋支部、大阪支部の事務局からの呼びかけといった多大なるご尽力のおかげで、最終的に総勢 15 名の方にご参加いただくことができました。これもひとえに、参加者を快く送り出してくださった各社のご協力の賜物と、心より感謝申し上げます。

今回の視察研修は、ジャカルタ、スラバヤ、バリ島と 3 都市のインドネシア国内での飛行機移動がありましたので、添乗員をつけての視察研修とさせていただきました。移動で長時間要する場面もありましたが、各都市での現地ガイドや、視察先での丁寧な説明とご案内、そして参加者皆様のご協力もあり、トラブルもなく視察研修を終えることができました。

視察中は日を重ねるにつれて参加者同士、親睦も深めていただき、自由時間なども気の合ったグループ毎にショッピングや食事、マッサージなど過ごしていただいたようです。参加者の皆様におかれましては参加して良かったと思える視察研修であればと願っております。

帰国してからご参加いただいた皆様より研修報告書をご提出いただき、ご意見やご提案が寄せられました。いただいた内容は今後の視察研修を計画させていただく際の参考とさせていただきます。

当協会では視察研修の他にも特殊鋼販売技士、特殊鋼販売加工技士の研修講座や、ボウリング大会、ゴルフ大会、野球観戦、教養講座などの行事を実施しております。今後とも多くの皆様にご参加下さるようお願い申し上げます。

最後に、今回の視察研修が参加者皆様の人生経験のプラスとなり、関係する皆様の今後の社業発展に役立つことを祈念いたします。

(一社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部
事務局 角川一裕

インドネシア特殊鋼関連視察研修報告書

2025年12月発行

| | | |
|---|---|--|
| 編 | 集 | 一般社団法人 全日本特殊鋼流通協会 東京支部 内外交流部会 |
| 発 | 行 | 一般社団法人 全日本特殊鋼流通協会 東京支部 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館4階 電話：03-3669-5803 FAX：03-3669-0395 |
| 製 | 作 | 全特協 東京支部 事務局 角川一裕 |
| 印 | 刷 | 同上 |